

宇津ノ谷峠 峠を越える旅人体験をしてみよう ● 約2.3km

7世紀頃からの道であるといわれる鳶の細道では、大軍が進行できないため、小田原攻めを行う秀吉公は1590年にこの道を整備し、のちに家康公が東海道としました。標高170m、15度の勾配は、標高210m、24度の勾配のある鳶の細道よりも数段歩きやすくなっています。

①宇津ノ谷集落

岡部宿と丸子宿^{あい}の間の宿であった40戸ほどの集落です。静岡市の都市景観条例で「美しいまちづくり推進地区に指定されており、地区では宇津ノ谷地区美しいまちづくり協議会を設立し、街道の面影のある町並みを保存しています。江戸末期～明治にかけての建物が多く現存しています。

②お羽織屋

豊臣秀吉が小田原攻めの際、馬のわらじを取り替えるために寄った茶屋です。当時の主人は縁起の悪い「4」という数字を避け、わらじを3本足だけ渡し、勝利を祈願しました。見事勝利を挙げた秀吉は主人の忠誠をほめて羽織を与えたことに由来しています。のちに徳川家康も訪れて茶碗を贈り、縁起の良い茶屋として参勤交代の大名なども立ち寄っています。

③慶龍寺

峠にあった地蔵堂の延命地蔵尊(弘法大師作伝)が祀られており、本尊は十一面観音菩薩。人肉を食べる鬼が峠に出没し、旅僧に化身した地蔵が十の玉にして退治した故事にちなんで「十団子」は室町時代から伝わるものです。毎年8月23～24日の縁日には魔避けのお守りとして販売されます。

④馬頭觀音

頭に馬の冠を載せている二体の観音様が特徴的。約200年前のもので、天保と明治の年号が見えます。馬頭観音は、事故や病気で死んだ馬を弔うために飼い主が建てたものと思われます。色々な種類の石仏のなかで数が多く、道端で目立つのが馬頭観音です。馬が最も重要な運送手段であった時代の人と馬との関係が伺えます。

かんさん
⑤雁山の墓

山口素堂に俳諧を学び、甲府と駿河で活躍した俳人。1727年頃旅にでてから音信不通になり、駿河の文人たちが墓碑を立てたと伝えられています。

⑥ 髭題目の碑

「南無妙法蓮華經」の文字は髭題目と呼ばれる書体であり、日蓮宗のさかんな県東部にはよく見られます。建立は天保6年1835年、発起人は備前の国(岡山県)木綿屋門平とあります。

7 羽倉簡堂 蘿徑記

「蘿」はつた「徑」小道を記わします。文政13年(1830年)から9年間駿府代官であり、歌人でもあった羽倉簡道が文学的に価値の高い蔦の細道が廃道になっているのを嘆いて建立しました。文字は当時「江戸時代の三筆」といわれた市河米庵いちかわ べいあんによるものです。道路整備における2度の移転を経て、現在の場所にあります。

